

進し地域における包括的かつ継続的な在宅医療提供体制の構築を目的とした在宅医療連携拠点推進事業多職種連携委員のメンバーとして、医療福祉分野・連携のエキスパートを目指し、医療福祉連携講習会に参加しました。

受講にあたり講師陣はスペシャリストの先生方ばかりで、医療系及び福祉系を基礎から学ぶことができました。実習は、座学だけでは学ぶことができない具体的な事例など様々な内容を多く学ぶことができ視野が広がり、また地域でのネットワークも広がりました。今回、同期生の実習の受入もさせていただくことになり、シラバスの内容に沿うようにと思いながら実習スケジュールを作りましたが、受け入れる難しさも実感しました。最終日のグループワークでは多くの意見交換ができ多職種の方々と作り上げる楽しさがあり、多くを学ぶことができました。同期生は全国から参加されており、グループラインを通して、様々な情報のやり取りができております。とても素晴らしい仲間ができました。これからも地域の医療福祉の円滑な連携ができるよう努力していきたいと思っております。

## 支部学術集会開催報告

### 第15回高知県支部学術集会

学術集会会長：医療法人永島会永井病院院長 市川徳和



会場風景

第15回高知県支部学術集会は2017年8月20日(日)に高知市春野文化ホールピアステージにおいて開催されました。今回のメインテーマは「地域包括ケアとりハビリテーション」で永井病院院長 市川徳和を学術集会会長として開催されました。

当日は県内の医療機関等から403名の参加がありました。一般演題77題の発表です。特別講演は和歌山県立医科大学附属病院副院長の田島文博先生「急性期プロフェッショナル・リハビリテーション医療」、教育講演は高知大学医学部附属病院リハビリテーション部准教授 石田健司先生「急性期病院におけるサルコペニアとフレイルの重要性」、特別スピーチは高知県立大学学長 野嶋 佐由美先生「医療・介護・福祉に対する高知県立大学の役割」でありました。本県の学術集会としては最大のものに発展しました。これも急性期を担う基幹病院の院長が役員になっていただき積

極的に演題発表を指導しているためと思っております。今回初めて慢性期病院が担当いたしました。今後急性期、回復期、慢性期とすべての医療機関が参加していただくような働きかけが重要になると思っております。

### 第16回島根支部学術集会

学術集会会長：JCHO玉造病院院長 池田 登

第16回島根支部学術集会を2017年9月9日(土)に島根県松江市くまびきメッセで開催いたしました。



会場風景

テーマは

「みんなで取り組む医療安全～対話がつなぐ医療への信頼～」とし、病院内部の守りの要であり、医療の質の向上のための必要条件でもある医療安全を取り上げました。

特別講演では上尾中央総合病院院長補佐の長谷川剛先生がこれまでの医療安全の考えとは異なる視点から見た新しい医療安全の考え方について、地域医療機能推進機構の顧問弁護士である仁邦法律事務所所長の桑原博道先生には法律家の立場から医療事故調査制度への実務的な対応についてお話して頂きました。

シンポジストの方々には各施設で独自に行っている医療安全に対する取り組みについてお話して頂きました。ポスターセッションでは様々な分野から演題を頂き熱心な討論となりました。

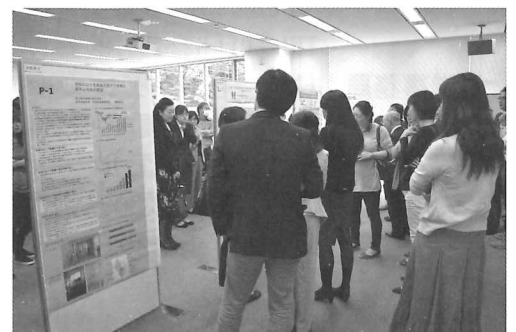
当日は医師をはじめとした医療関係者の他、教育関係者や行政関係者等、多職種300名のご参加を頂きました。ご参加頂いた皆様のご協力をおもちゃして無事開催できましたことを、厚く御礼申し上げます。

### 第17回栃木支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構栃木医療センター

院長 長谷川親太郎

2017年10月7日(土)、とちぎ健康の森において「地域包括ケアシステムの構築を考える」をテーマに、第17回栃木



会場風景